

# 校長室だより (No.12)

令和6年1月9日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 3学期始業式のお話から

皆さま、新年明けましておめでとうございます。本日、1月9日から3学期が始まりました。

この1月1日、午後4時4分に大きな地震が能登半島を中心に起こり、ここ丹波市においても地震による揺れを感じました。震度7の地震とそれに伴う津波や火災で大変な被害が出ています。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々の一日も早い復興と一緒に願いたいと思います。

皆さんの住んでいる兵庫県でも28年前の1月17日に大きな地震が起こりました。知っている人も多いと思いますが、「阪神・淡路大震災」です。午前5時46分という早朝に起こりました。家の中に居た人も多く、倒れてきた家具や崩れた壁により建物から出られなくなった人も多くいました。また、今回の地震のように大きな火災も発生し、多くの方が命を失いました。犠牲者は6434人にもなっています。震災当時の様子は、毎年4年生が見学に行く阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」で体験することができます。

その時に私たちは、日本中、世界中の多くの人々に助けられました。このセンターの展示のひとつに「ポリタンク」があります。ただの青いポリ容器ですがこのようにコメントがあります。「このポリ容器（灯油缶）は、震災当時、三重県在住の方が被災地にいた友人に水を届けるために使ったものです。震災4日目の1月21日、自宅から西宮まで約120kmの距離を、ポリ容器と共に移動しました。手記には、電車を乗り継ぎ、徒歩で友人の家へ向かう様子に加え、道中に出会った人との会話や、被災地での助け合いの様子が記されています。」（※二人の絆を結んだ水は、今も保管されています。）

この大きな災害から私たちは、大切なことを学びました。「伝える」「備える」「活かす」です。震災で経験したことを新しい世代にしっかり「伝え」ようということ、南海トラフ地震などの次の地震や災害に「備え」（準備しておくこと）ること、そしてこの大きな震災で経験したことをこれからの生活に「活かす」ことです。

小学生の皆さんにおき直すと、地震や災害のことをいろいろな事を通して「学ぶ」、これから起きるかもしれない地震や災害に「備える」、そして、普段からお互いに「助け合う」という気持ちを大切にすること、このことを大切にしてほしいと思います。16日には、メモリアル集会在予定されています。この日を中心に震災のことを学習すると思います。世界中で起こっている地震の10%は日本付近で起こっています。昔のことと考えずにしっかり学んでほしいと思います。避難訓練で地震に備えてほしいと思います。学校外で起こった時（通学路、自分の家、車の中）にどう行動するのかを考えてみてください。そして、普段から近所の人や友達とよい関係をつくって、いつでもお互いの命を助け合えるようにしてほしいと思います。